

中小企業を支援する **2004年6月発足のIT経営応援隊とは？**
(経済産業省推進事業)

やること

- セミナー
- ビデオ提供
- 教科書など情報
- 産業局
- 商工会
- 支援センター
- その他多くの機関
- 地域窓口の明確化

隊員は？

会長 原 邦生 株式会社メリーチョコレートカンパニー 代表取締役
副会長 川内 晟宏 プロセス経営研究所 代表/ITコーディネータ
眞柄 泰利 マイクロソフト株式会社 常務執行役

幹事メンバーは

- 商工団体
- 公的支援機関
- ITベンダー
- 中小企業支援機関
- ITサポーター
- 等々

協力して中小企業をサポート！
IPAとITコーディネータ協会が事務局となって活動

特徴は？

- 官民が協力してパワーを結集
- 成功経営者の事例を積極紹介
- まだ、何をして良いかわからない企業に様々なきっかけを用意



▲経済産業省推進事業「IT経営応援隊」ロゴ

「IT経営応援隊」発足

ペンチ・ニッパ製造のトップ企業であるフジ矢（野崎恭伸社長・東大阪市）は、生産計画の見直しやシステム化で在庫削減とキャッシュフローの大幅削減を実現した。そのきっかけは、「たまたま」誘われて参加したITSSP事業でのアドバイザー派遣だった。それほど強い意思をもって望んだわけではなかったが、研修や討議を進めていくうちに、会社のあるべき姿が見え、ITを活用した大きな改革に踏み切ったのだという。Webの改善で在庫削減や新規顧客開拓に成功した東海パネ工業（渡辺良機社長・大阪市）も、きっかけは勧められて参加した大阪産業創造館の西岡IT塾だった。

こういった、改革の「入口」となる機会は、実は各地にたくさんある。かまえずとも、参加することで何らかのヒントや刺激が得られるはずだ。

さらなる支援へ
「IT経営応援隊」発足

方式を見直し改革に踏み切るの
思った以上に労力があるものだ。そんなときに有効なのが「社外からの刺激」である。

来年まで会社が継続できるかと聞かれたら、多くの経営者は「なんとか大丈夫だろう」と答えるだろう。では「10年後はいかがですか」と問われたときに、胸を張って「大丈夫」と言える会社は何%くらいになるだろうか。

「優良企業」であったとしても、その経営手法が中期的に通用するかどうかは誰にもわからない。変化の波にのれず苦境に陥る可能性も十分にあるだろう。

「企業経営者の皆様には、会社をどうしたいのか。事業の将来を見据えてほしい。そうすれば、何をすべきかが自ずと見えてくると思います」

経済産業省では、2004年6月から新しい中小企業経営支援プロジェクト「IT経営応援隊」を立ち上げた。このプロジェクトはメリーチョコレートカンパニー社長の原邦夫氏を会長に、中小企業支援に関わる多くの公共団体、ITベンダー、商工団体が集い、中小企業の経営改革を支援するというものだ。地域関係機関の連携を深め、地域に根ざした活動を行うのが特徴である。具体的には、セミナーや成功経営者による講演、事例集や教科書をはじめ各種情報提供などが予定されている。

このように、中小企業の経営改革をサポートする動きは今まで以上に活発になっている。次項では、IT経営応援隊への参加団体を含め、用途に応じた様々な公的支援を紹介していく。



改革の第一歩 いつ踏み出しますか？

— 10年後も元気な会社でいるためのIT経営支援策 —

経営改革を行おうと決意した企業には、思った以上に手厚い行政サービスが用意されている。セミナー、研修会、公的支援機関、アドバイザーの派遣等々…。これらを上手に活用し、自社の経営力を高めるための方法を徹底紹介する。

